

世界の若者 山形奮闘記

～海外出身の山大卒業生～

第2回

私から見た日本のよさ

NDソフトウェア株式会社 張 彪



私の出身地は中国の平原地域である。そのため、小さい時から山に憧れていた。初めて山形に来た時に、乗っていた電車がトンネルから出た瞬間、遠くの山と田んぼで構成されていたきれいな風景が目の前に現れて大変感動した。その時からここに残りたいと決意した。その後の生活の中では地元の方々とコミュニケーションを取り、日本語だけではなく、日本の歴史、文化などをたくさん教えていただいた。今までの生活で自分が感じている日本をここで紹介させていただきたいと思う。

■教育について

日本の義務教育期間は、小学校6年、中学校3年の計9年となっており、中国と同じである。しかし、日本と違って中国の新学期は9月に始まる。現在、中国では戦争のような激しい受験が行われているが、日本もかつてはそうだったと聞く。終身雇用制が崩れ始めるとともに、学歴の重要性も昔ほどではなくなり、入社試験の面接で出身学校を問わない会社も出てきた。今も受験は厳しい競争の中で行われているが、将来への選択肢が増えていることも事実であり、学歴だけにとらわれない評価がされるのは良い傾向だと思う。

■防災について

日本は自然災害が多い国としてよく知られている。地震、土砂崩れ、洪水などの災害が頻発している地域では、防災訓練が定期的に行われている。いつ起きても不思議ではなく、万一に備えて準備をしておくことが被害の軽減につながるというのが小さい時から教えられているようだ。中国も自然災害が多い国だが、訓練を行っているところは少ない。このような教育的訓練をさらに強化すべきだと思う。それに、日本人のほとんどの家庭で

は、衣類、毛布、飲料水、食料品、ナイフ、手袋などの防災グッズを袋の中に入れて、玄関先に用意している。日本人の防災意識の高さに驚かされた。

■労働力について

日本ではいま、若い労働力が不足している。そこで、各職場では労働力を確保するためにいろいろな工夫をしている。その一つの方法として、働く時間を自分で選べるという、フレックスタイム制度を取り入れる会社が増えてきた。働く時間を自分で選べるといっても、まったく自由に自分で好きな時に働けばいいというものではない。例えば、ある会社ではコアタイムといって、午前10時15分から午後3時15分までは全員働かなければならないという時間帯を決めている。その前後の時間は自由で、朝6時15分から夜9時45分まではいつでも自分の好きな時間を選んで働くことができる。近年、中国は豊富な労働力の恩恵を受け、高度な経済成長を成し遂げてきたが、上海のような大都市では高齢化が早いスピードで進んでおり、遅かれ早かれ労働力が不足する日が来るだろうという気がしている。日本から雇用制度を学び、将来に備える必要があると思う。

以上が私が感じた日本である。まだまだ勉強しなければならいことが多いが、今後日本の魅力・良さを母国に発信し続けていきたいと考えている。

張 彪 (チョウ・ヒョウ)

中国河北省出身。
中国長春大学卒業後、山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学博士前期課程修了。
2013年NDソフトウェア株式会社入社。